

実践事例②（B校）

B校の10月の実践では、ワークシートに記入する時間を確保することにより、自分の考えを深めさせることができました（A⑥、B⑥）。一方、作文を書くことはできたものの、その作品を見直させ、よりよいものにする時間を十分確保できなかったため、作品の内容、語彙力ともに課題が残りました（コ、サ）。それを受けて、11月の実践では、キャッチコピーを作る際に、描いた作品をグループで見せ合い、良いキャッチコピーの条件を満たしているかどうかを考えさせる時間を設定しました（B⑦）。

単元名 キャッチコピーを付けて魅力を伝えよう

教材名 「君は『最後の晚餐』を知っているか」 布施英利（光村図書 2年）

「西洋絵画の鑑賞事典」 佐藤晃子（永岡書店）

「いちまいの絵 生きているうちに見るべき名画」 原田マハ（集英社）

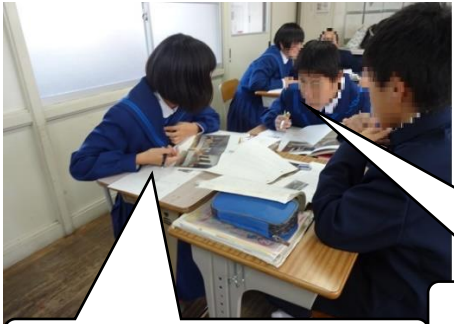
指導計画（全6時間）

次	時間	学 習 活 動	手立て
一	1	・「最後の晚餐」やレオナルド・ダ・ヴィンチについて知っていることを発表する。 ・学習課題、学習計画を知る。 ・キャッチコピーの例を確認し、短い言葉で印象的に表現する効果を確認する。 ・優れたキャッチコピーの条件を確認する。 ・教材を読む。	
	2	・本文を読み、絵画の科学を電子黒板を利用して確認する。 ・絵画の科学と視点の移動をワークシートに整理する。	
二	3	・修復後の「最後の晚餐」について書かれた部分を読み、「かつこいい」と感じる根拠をまとめる。	
	4	・「最後の晚餐」について書かれた複数の文章を読み、印象的な一言とキャッチコピーを書く。 ・絵画の見方についてどれに共感できるかを話し合う。	
三	5 本時	・「最後の晚餐」についてキャッチコピーを付けて紹介する。	B⑦
	6	・他人の考えを知り、自分の考えを広げる。 ・単元全体を振り返り、この単元で付けた力についてまとめる。	

本時の目標

キャッチコピーを付けて、絵画を魅力的に紹介する。(伝国オ)

	主な学習活動	教師の働き掛け(○)、授業の質的改善のための手立て(□)
導 入	1 前時の振り返りをする。	○前時を振り返り、短く印象的な言葉で絵画の魅力を伝える文を読んだことを確認した。
	2 本時のめあてと活動を知る。	○前時に全員で考えた、三つの文章を元にしたキャッチコピーをそれぞれ板書で確認した。
	本時のめあて パンフレットに入れるキャッチコピーを考えよう。	
展 開	3 自分が感じた「最後の晚餐」の魅力を挙げる。	○三人の筆者がそれぞれ違った点に魅力を感じていたように、自分が思う「最後の晚餐」の魅力を書かせた。
	 人々がざわざわしている感じが見ただけで伝わってくる。ストーリーが伝わってくる感じだ。	○書けない生徒に対し、印象や様子を表す語彙を書いたヒントカードを配り、当てはまるものや、近いものを探すように支援した。 ○書いたものの中から、自分が一番他者に伝えたいことを選ばせた。 
	4 優れたキャッチコピーの条件を復習する。	○1次で確認した、(1)「短いことば」(2)「意外性」(3)「感情に訴える」(4)「たくさんの意味を推論できる」(5)「表現技法」という優れたキャッチコピーの条件を板書して確認した。
	5 一番伝えたいことを入れたキャッチコピーを作る。	○興味がない人にも興味を持ってもらうために、「カッコいい」のような印象的なフレーズを入れるように指示した。 ○机間指導しながら、(1)～(5)のどれかに当てはまるものになるように、個別に声を掛けた。難しい場合は、前回全体で作成したものをアレンジするように指示した。

	6 現時点でどのようなものができているか発表する。 7 グループで見せ合い、推敲をする。 	○印象的なフレーズが入っているかどうか絞って評価した。 ○書いた作品をグループで見せ合い、(1)～(5)の条件に当てはまっているか考えさせ、推敲を促した。また、出来上がっていない場合、出来上がっている生徒にアドバイスするよう指示した。 [B⑦]
ま と め	8 本時の振り返りと次時の学習内容の確認をする。	○自分が感じたことを効果的に他者に伝え興味を持たせるために、どのような言葉を選んだか、どのような工夫をしたのか振り返りをさせた。 ○学級で作品を共有し、評価を行うことを伝えた。

○○の方が良いと思うよ。

○○と▲▲はどっちがいいかな？

検証授業を振り返って

(成果○ 課題●)

- グループで交流を行い、互いの作品を推敲させる時間を設定したため、生徒はキャッチコピーを多様な見方で捉えることができていました。
- キャッチコピーについて、既習事項を振り返る場面を設定することができれば、生徒は更に主体的に言語活動に取り組むことができたと考えられます(シ→A⑦、C④)。
- ヒントカードの内容や出すタイミングに工夫が足りなかったために、その効果があまり見られませんでした。生徒の思考を促すヒントカードの提示について、再考する必要があります(カ、キ→C⑤)。
- グループ交流の後に、代表者が発表するなど、学級全体で考えを共有する場が設定できれば、生徒の考えの再構築が更に進んだと考えられます(セ、ソ、タ、チ→B⑩⑪、C⑨)。